

新型コロナウイルス感染拡大に伴う偏見・差別・ハラスメント

前号では、「新型コロナウイルスの3つの感染症の正体」という内容で、「病気」「不安」「差別」という3つの感染症がつながり、負のスパイラルを生み出していることをお伝えしました。今回は、11月中旬に内閣府から出された『偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループ これまでの議論のとりまとめ』から、実際の偏見や差別、ハラスメントの実例を一部御紹介します。これらを読んで、皆さんは何を感じるでしょうか。

- 幼稚園や保育園側から、送迎のために敷地内に入ることや「明日も預けるつもりですか？」と、登園自体を拒否されました。【医療従事者に対して】
- 身内の葬儀への参列を断られた。【医療従事者に対して】
- 職員の子供が小学校で発熱したため引取りに行ったところ、校長室に呼び出され、職場や自身のことなど必要以上に事情聴取され、疲れ切ってしまった。【医療従事者に対して】
- 日本から出て行け。おまえたちは日本人じゃない。殺人者を100人も作って。教師が馬鹿だからこのような事態になる。落とし前をつけろ！【高校や生徒に対して】
- 謝って済む問題ではない。傷害罪、殺人未遂、使えない奴ら、行動自粛しろ！頭つかえ、人災、私立やったらなおさらだ！【高校や生徒に対して】
- 長距離トラックで東京、大阪等に行くのだが、社内で病原菌扱いをされる。特定の人間が徒党を組んでハラスメントをやめようとしめない。【従業員間】
- 週末に法事で帰省し、月曜日に戻ってきたところ、社長に「活動自粛なのに帰省するとは何事か。」「きっと新型コロナに感染しているに違いない。」「あんたのせいで会社が潰れたら訴えるぞ。」「もうクビだ。二度と来るな。」などと一方的に言われ、仕方がないので自席の荷物を片付けていると、除菌スプレーを吹き付けられた。【従業員に対して】
- SNSに「感染源の店」「コロナ患者が働いている」「コロナ患者が立ち寄った店」という書き込みをされた。【インターネット上での侵害】
- インターネット上に実名が公表されて誹謗中傷を受け、家族が追い込まれている。【インターネット上での侵害】
- 細心の注意を払い、初孫の宮参りに大阪まで行ってきた。出発前には「気を付けて行ってきてね。」と言われていたのに、出先でコロナ感染者が出たことをきっかけに、「なぜこんな時期に出かけた。」など、仲間の態度が一変した。仕事も欠勤扱いとなった。怖くて過呼吸にもなって、これからも出社できそうにない。【友人間】

これらはほんの一部です。しかし、事実です。「いつもは近所の気のいいおじさんが、コロナで一変する」とは、ある大学の先生のお話で、とても印象に残った言葉でした。

不確かな情報や非科学的な情報があふれ、何を信じていいのか、何をすればいいのかを見極めることが難しくなっています。しかし、シンプルに考えれば、「闘う相手は、ヒトじゃない。」のです。自分だけでなく相手のことも考えることを、常に心に留めておきたいものです。

闘う相手は、
ヒトじゃない。

